

■「効果の見える治水事業」

香川県 香東川総合開発事業(柵川ダム)

香川県土木部河川砂防課 香多 拓夫



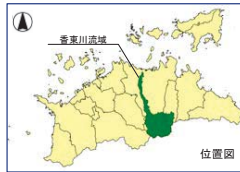
香東川(こうとうがわ)は、その源を香川県木田郡三木町の高仙山(標高627.1m)に発し、途中、柵川(かばがわ)、内場川(ないばがわ)、西谷川(にしにがわ)を合流し、高松市市街地西部で瀬戸内海に注ぐ流路延長33.0km、流域面積113.2km²の香川県を代表する2級河川です。

香東川流域では、従来から出水のたびに浸水被害が発生しており、特に、平成2年の台風19号や平成16年の台風23号などによる洪水で多くの浸水被害が発生しました。当流域は市街化が進んでおり、一度洪水が発生すると被害は甚大となるため、抜本的な治水対策が望まれています。また、平成6年の大濁水に代表されるように、たびたび深刻な濁水に見舞われており、市民生活や経済活動に多大な影響が生じているため、新しい水資源の確保が強く求められています。

こうした台風や集中豪雨などによる水害や、近年の頻発する濁水に備えるため、香東川水系柵川において、洪水を防御する治水機能と、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給及び異常濁水時等の緊急水補給を目的とする利水機能を併せ持つダムの整備を実施するものであります。柵川ダムは、重力式コンクリートダムとして高さ88.5m、総貯水容量10,560,000m³、有効貯水容量10,290,000m³で、完成すれば高さ、容量とも県内最大のダムとなります。

平成8年度の建設事業採択から、これまでに、付替道路工事進捗率(道路延長ベースでの着手済率)は平成26年度末で約74%となりました。平成26年10月15日にダム本体工事の契約を行い、平成27年度は、ダム本体工事及び付替道路工事を進めています。

柵川ダムは、治水、利水の両面から極めて重要な事業であり、地元高松市や地元関係者からも早期完成が強く望まれています。今後、ダム本体工事に着手することになりますが、安全対策や周辺環境に十分配慮しながら、事業の早期完成に向けて取り組んでまいります。



香東川の出水状況(平成16年台風23号)



付替県道整備状況



完成予想イメージ

「四国・水こぼれ話談話室」
「安全・安心のまちづくり」(香川県高松市)

高松市長 大西 秀人



高松市は、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで人々の暮らしや経済・文化など様々な面において、瀬戸内海との深いかかわりの中で、県都として、発展を続けてきました。

平成17年、18年の合併により、現在市域の面積は、375.23km²となり、北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る、海・山・川など自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する人口約42万人の中核市です。

市中心部には、堀に瀬戸内海の海水を引きこんだ、日本三大水城の一つである史跡高松城跡の玉藻公園、市街地東部には、源平合戦の古戦場で有名な屋島が位置しているほか、海上4kmには、女木島(鬼が島)、男木島・大島が浮かび、市南部には塩江温泉郷などがあります。



内場ダム

塩江町は、徳島県との県境で本市の最南部に位置しており、香東川水系の柵川ダムや内場ダムなどに代

表される水源地域であり、香東川は、古くから水利用が行われ、かんがい用水、水道用水の水源等に利用され、下流部には広大な耕地を有し、県内の穀倉地帯となっています。

また、この流域は、昭和13年9月の台風による未曾有の大洪水をはじめとした、台風期の豪雨による災害が多く発生しており、度重なる洪水被害に対する治水安全度向上策として、昭和28年には内場ダムが竣工し、また、昭和46年度からは河道の整備など、治水事業を進めてきました。

しかしながら、近年の気象状況の変化等により、その後も幾度も災害が発生しているとともに、本水系の周辺において市街化が著しく進んだことから、浸水被害は増加傾向にあり、地元住民は抜本的な治水対策を強く望んでいる状況にあります。

そこで、現在、県が事業主体となり建設中の柵川ダムは、多目的ダムとして香東川水系の治水対策と水道用水や濁水時等の水源確保として期待されている事業であり、本市といたしましても平成32年にダム完成が図られますよう、今後も国や県の御支援を賜わりながら、鋭意事業の促進に努めてまいりたいと存じます。